

# 伊那圏域河川整備計画 概要版

## 第1章 対象圏域と河川の現状

### ◆対象圏域の概要

長野県においては、天竜川水系の流域が県土のほぼ南半分を占めている。河川整備計画の策定に際しては、地形や地域特性等からこの流域を3圏域（諏訪圏域、伊那圏域、飯田圏域）に区分するものとする。このうち、伊那圏域は、伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村と岡谷市、塩尻市の一部を含む4市3町3村で構成されている。

### ◆圏域内河川の現状と課題

伊那圏域内の河川においては、昭和の初頭より天竜川及び三峰川等を中心に河川改修が行われてきた。昭和39年の法改正により天竜川水系は昭和40年4月に一級河川となり、これ以降圏域の河川は一定計画に基づく改修が進められてきた。

河川改修の多くが局部改良工事や災害復旧工事であり、全川の改修にまで至っていないのが実状であり、昭和40,44,57,58平成3,11年と立て続けに梅雨や台風による集中豪雨に襲われ、圏域内に甚大な被害が発生している。近年では、平成18年7月の梅雨前線豪雨により多大な被害を受け、より高い治水安全度の確保が望まれている。

## 第2章 河川整備の目標に関する事項

### ◆計画対象区間

本河川整備計画の対象となる河川は、伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村と岡谷市、塩尻市の一部を含む4市3町3村における天竜川水系に属する一級河川のうち、長野県が管理する102河川、全長約497kmとする。

### ◆計画対象期間

本河川整備計画の対象期間は、河川整備の実施に関する事項に記載されている河川整備が一連の効果を発現する期間として、今後20年間とする。

ただし、天竜川については、下流部の国管理区間と一連の効果を発現する期間として、概ね30年間とする。

### ◆洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

伊那圏域内の河川のうち、沿川の人口・資産の集積状況、災害の発生状況、現況の流下能力等を考慮すると、洪水による被害が発生した河川、もしくは被害の発生危険度が高い河川や想定される被害の大きな川として、天竜川、小沢川、駒沢川が整備の必要な河川にあげられ、その3河川の整備を優先的に行う。

整備に当たっては各河川で想定した規模の洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保することを目的とする。

また、天竜川本川の整備に影響がある箇所については、国と連携・調整を行う。

### ◆河川の適切な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

本圏域では、顕著な渇水は認められていないが、既設の取水施設のさらなる有効利用を図り安定した水資源の供給を図るものとする。

横川川においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、横川ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、河川の低水流況、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔の保持等を勘案し、ダム地点で0.030m<sup>3</sup>/s～0.247m<sup>3</sup>/s、下横川堰で0.259m<sup>3</sup>/s～0.589m<sup>3</sup>/sの水量を確保するよう努める。

沢川においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、箕輪ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、河川の低水流況、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔の保持等を勘案し、ダム地点で0.110m<sup>3</sup>/s、福沢地点で0.341m<sup>3</sup>/s～0.723m<sup>3</sup>/sの水量を確保するよう努める。

他の河川については、各河川の水利用の実態や住民の意見を参考に優先度の高い河川については、流況等のデータの蓄積や動植物の保護、流水の清潔の保持等について必要調査・検討を行い、正常流量の設定に努める。

### ◆河川環境の整備と保全に関する事項

良好な河川環境や景観の保全に努め、河川改修に当たっては瀬や淵の保全、自然石等を取り入れた護岸等の採用及び動植物への工事に伴う影響を極力減らし、良好な生息、生育環境の保全・復元に努める。

さらに、河川空間の利用がなされている区間を整備する際は、河川と堤内地との連続性を確保できるように階段などの施設を適当な間隔で設置し、人が川により親しむことのできる環境の整備や親水性の確保に努める。

## 第3章 河川整備の実施に関する事項

◆河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要  
ここに記載する河川は、河川整備計画の目標を実現させるための具体的方策として計画的に河川整備を施行する河川とする。

### 優先的に整備を行う河川に関する内容

河川名	治水安全度目標	河川工事の種類等	機能の概要
天竜川	釜口水門からの放流量 500m <sup>3</sup> /s を安全に流下させる。	河道改修: L=1400m	流下断面の増大による流下能力の向上
小沢川	1/50	河道改修: L=410m	流下断面の増大による流下能力の向上
駒沢川	1/30	河道改修: L=3760m	流下断面の増大による流下能力の向上及び下流区間への土砂及び立木の流出防止

### ◆河川の維持の目的、種類及び施行の場所

- 土砂が堆積し洪水の流下の障害となる等、治水上の支障となる場合は、環境に配慮しつつ堆積土の除去、立木伐採、草刈り等の必要な対策を河川愛護団体と協力して行う。
- 護岸等の河川構造物の変状、異常の早期発見のため、定期的な河川巡視を行うとともに、河川管理上支障をきたす場合は速やかに修繕等必要な対策を行う。
- 圏域内の河川の水量、水質については、関連市町村、利水関係者、河川愛護団体及び漁業関係者等から積極的に情報を収集するとともに、河川パトロールや河川愛護団体等と連携を図り流水の状況の把握に努める。
- 河川愛護に関する活動を支援し、河川環境改善の意識向上に努める。河川愛護活動を支援することにより、住民参加による河川環境の保全を促進するものとする。

## 第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

### ◆河川情報の提供に関する事項

- 雨量・水位情報をリアルタイムで収集し、関係機関等に情報提供することにより、水防活動等、必要な対策への支援を行う。さらに、関係機関と連携して洪水ハザードマップを周知し、水害に関する意識の向上を図り、水害発生時の迅速な避難行動を支援する。
- パンフレット配布、イベントの開催及びホームページへの掲載等により、河川に関する情報提供を行い、河川に関して広く理解を得られるように努める。
- 水質事故、渇水被害等が発生した場合には、事故状況の把握、関係機関との情報の共有に努め、水質の監視、事故処理等について関係者及び関係機関と協力して行い、その影響の軽減に努める。

### ◆地域や関係機関との連携等に関する事項

- 流下断面や堤防高さの不足等により氾濫が予想される区域及び連絡系統等を定めた水防計画を樹立するとともに、水位情報の提供や避難判断水位到達情報、水防警報の発令を行い、関係機関と連携し、洪水被害を防止・軽減するための水防活動を支援する。また、天竜川等に流入する河川の内水氾濫に対しても、関係機関との連携を図り、その被害の軽減に努める。
- 流域の視点に立った適正な河川管理を行うため、治水上影響が大きい土地の改変を伴う開発行為に対して、関係機関と連携して流出量の低減に努める。
- 総合的な土砂の管理に関し、関係機関と連携し、情報共有を図る。
- 計画、施工から維持管理に至るすべての段階において、流域に居住する住民や市町村等と連携を図り、地域ぐるみで“川づくり”を目指していく。
- 河川愛護団体と連携した草刈り、ゴミ拾い等の維持管理や地域住民、企業及び関係市町村とのパートナーシップによる河川美化活動・河川愛護活動である「川のアダプトプログラム事業」の普及に努めるとともに、河川が環境教育の場として有効活用されるよう地域住民や地域の小中学校との連携を深めていく。
- 釜口水門は、諏訪湖からの唯一の放流箇所であり、過去から段階的に放流量を増加させているものの、洪水時には諏訪湖周辺や流入河川の沿川で浸水被害が繰り返し発生している。こうした被害の軽減に向けて、下流本川の改修状況とバランスを図りながら放流量については、関係機関と連携しながら検討していく。